

令和5年度病害虫発生予察予報第7号（令和5年10月）

令和5年10月5日
高知県病害虫防除所

《予報の概要》

作物名	病害虫名	予想発生量※
カンキツ類 (温州ミカン)	そうか病 黒点病 ミカンハダニ カメムシ類	<u>多(中央)</u> <u>多(中央)</u> <u>やや多(中央)</u> 平年並(中央)
カンキツ類 (中晩柑類)	そうか病 黒点病 かいよう病 ミカンハダニ カメムシ類	<u>多(西)</u> 、少(東、中央、中西) <u>多(中央、西)</u> 、 <u>やや多(東、中西)</u> 平年並(中西)、やや少(東)、少(中央、西) <u>多(中央)</u> 、 <u>やや多(東、中西)</u> 、やや少(西) <u>多(中西)</u> 、平年並(東)、やや少(中央、西)
促成ナス	フザリウム立枯病 ミナミキイロアザミウマ ハスモンヨトウ タバココナジラミ	<u>多(東、中央)</u> 、平年並(西) やや少(中央)、少(東、西) <u>多(東、中央、西)</u> <u>やや多(西)</u> 、やや少(東、中央)

※ ()内の表記 東：県東部、中央：県中央部、中西：県中西部、西：県西部
 県東部：安芸市、室戸市および安芸郡の町村
 県中央部：高知市、南国市、香美市、香南市、長岡郡・土佐郡の町村、
 吾川郡いの町および高岡郡日高村
 県中西部：土佐市、須崎市、高岡郡(日高村を除く)の町村および吾川郡仁淀川町
 県西部：四万十市、宿毛市、土佐清水市および幡多郡の町村
 なお、野菜は「土佐市」を中央部に入れています。

I 気象予報(高松地方気象台 9月28日発表)

9月30日から10月29日までの天候見通し

<予想される向こう1か月の天候>

暖かい空気に覆われやすいため、向こう1か月の気温は高いでしょう。特に、期間のはじめは気温がかなり高くなる見込みです。2週目の気温は平年並の見込みです。

向こう1か月の平均気温は、高い確率60%です。

週別の気温は、1週目は、高い確率80%です。2週目は、平年並の確率50%です。3～4週目は、平年並、高い確率とも40%です。

<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>

期間	対象地域	要素	低い(少ない)		平年並	高い(多い)
1か月	四国地方	気温	10	30	60	
		降水量	30		40	30
		日照時間	30		40	30

<気温経過の各階級の確率(%)>

期間	対象地域	低い		平年並	高い
1週目	四国地方	10	10	80	
2週目		20		50	30
3～4週目		20	40		40

<予報の対象期間>

1か月：9月30日(土)～10月29日(日)

1週目：9月30日(土)～10月6日(金)

2週目：10月7日(土)～10月13日(金)

3～4週目：10月14日(土)～10月27日(金)

II 病虫害発生予想

1 カンキツ(温州ミカン)の病虫害

1) そうか病

予 想 発生量：多(中央部)

根 拠

(1) 9月の調査では、発生面積は平年よりも多く、発生程度は平年並であった。

(2) 10月は気温が高く、降水量は平年並と予想されているが、時期的に果実の感染リスクが低いことから、現在の状況が続くと考えられる。

対 策

(1) 発生の多い園では黒点病の防除を兼ねて薬剤散布を行う。また、防風垣などの整枝を行い、園地の通風をよくする。

2) 黒点病

予 想 発生量：多(中央部)

根 抛

- (1) 9月の調査では、発生面積は平年よりも多く、発生程度は平年よりも低かった。
- (2) 10月は気温が高く、降水量は平年並と予想されていることから、発生は増加すると考えられる。

対 策

- (1) 密植園での間伐、老木の更新、防風林の整備等により、枯枝の発生ができるだけ少なくなるように管理する。
- (2) 前回の防除から25日以上経過するか、累積雨量が250mmを超えると薬剤散布を行う。

3)ミカンハダニ

予 想 発生量：やや多(中央部)

根 抛

- (1) 9月の調査では、発生面積は平年並、発生程度は平年よりも低かった。
- (2) 10月は気温が高く、日照時間は平年並と予想されていることから、発生は増加すると考えられる。

対 策

- (1) 薬剤抵抗性の発達を避けるため、異なった系統の薬剤によるローテーション防除を心がける。

4)カメムシ類

予 想 発生量：平年並(中央部)

根 抛

- (1) 9月の調査では、発生が見られていないが、県東部や中西部の中晩柑類で発生が見られている。
- (2) 9月の県中央部でのフェロモントラップへの誘殺数は、平年よりも少ないが、予察灯への飛来数は平年よりも多い(令和5年度病害虫発生予察技術情報第6号を参照<https://www.nogyo.tosa.pref.kochi.lg.jp/download/?t=LD&id=4659&fid=81806>)ことから、発生は増加すると考えられる。

対 策

- (1) 果樹園周辺の雑木林から飛来してくるので、園内をよく観察して、飛来を確認したら防除する。台風などによる強風の後、園地に飛来することもあるので注意する。

2 カンキツ(中晩柑類)の病害虫

1)そうか病

予 想 発生量：多(西部)、少(東部、中央部、中西部)

根 抛

- (1) 9月の調査では、県西部で発生が見られ、発生面積は平年よりも多く、発生程度は平年並であった。
- (2) 10月は気温が高く、降水量は平年並と予想されているが、時期的に果実の感染リスクが低いことから、現在の状況が続くと考えられる。

対 策

- (1) 発生が見られる園では黒点病の防除を兼ねて薬剤散布を行う。また、防風垣など

の整枝を行い、園地の通風をよくする。

2)黒点病

予 想 発生量：多(中央部、西部)、やや多(東部、中西部)

根 拠

- (1) 9月の調査では、県下全域で発生が見られ、発生面積は県中央部、西部で平年よりも多く、東部、中西部で平年並であった。発生程度は中央部で平年よりもやや高く、その他の地域は平年並以下であった。
- (2) 10月は気温が高く、降水量は平年並と予想されていることから、発生は増加すると考えられる。

対 策

- (1) 密植園での間伐、老木の更新、防風林の整備等により、枯枝の発生ができるだけ少なくなるように管理する。
- (2) 前回の防除から25日以上経過するか、累積雨量が250mmを超えると薬剤散布を行う。

3)かいよう病

予 想 発生量：平年並(中西部)、やや少(東部)、少(中央部、西部)

根 拠

- (1) 9月の調査では、県東部と中西部で発生が見られ、発生面積は中西部で平年よりもやや少なく、東部で少なかった。発生程度はいずれの地域も平年並以下であった。
- (2) 10月は気温が高く、降水量は平年並と予想されていることから、発生はやや増加すると予想される。台風の襲来があれば更に増加し、未発生地域においても発病が見られるようになると考えられる。

対 策

- (1) 銅剤等の散布による予防に努めるとともに、発病がみられる夏秋梢を剪定、除去する。

4)ミカンハダニ

予 想 発生量：多(中央部)、やや多(東部、中西部)、やや少(西部)

根 拠

- (1) 9月の調査では、県下全域で発生が見られ、発生面積は県中央部で平年よりもやや多く、東部、中西部で平年並、西部で少なかった。発生程度は中西部で平年よりもやや高く、その他の地域では平年並以下であった。
- (2) 10月は気温が高く、日照時間は平年並と予想されていることから、発生は増加すると考えられる。

対 策

- (1) 薬剤抵抗性の発達を避けるため、異なった系統の薬剤によるローテーション防除を心がける。

5)カメムシ類

予 想 発生量：多(中西部)、平年並(東部)、やや少(中央部、西部)

根 拠

- (1) 9月の調査では、県東部、中西部で発生が見られ、発生面積は中西部で平年よりも多く、東部で少なかった。発生程度はいずれの地域も平年並であった。

(2) 9月のフェロモントラップへの誘殺数は、東部、中央部、中西部では平年よりも少なかったが、西部では第6半旬に急激に増加した。また、予察灯への飛来数は平年よりも多い(令和5年度病害虫発生予察技術情報第6号を参照<https://www.nogyo.tosa.pref.kochi.lg.jp/download/?t=LD&id=4659&fid=81806>) ことから、発生は増加し、未発生地域においても発生すると考えられる。

対 策

(1) 果樹園周辺の雑木林から飛来してくるので、園内をよく観察して、飛来を確認したら防除する。台風などによる強風の後、園地に飛来することもあるので注意する。

3 促成ナス

1)フザリウム立枯病

予 想 発生量：多(東部、中央部)、平年並(西部)

根 拠

(1) 前年に本病が発生したほ場では伝染源量が多いと考えられる。

対 策

(1) 発病が見られ始めてから防除を実施しても効果は全く期待できないので、主要な感染時期と考えられる8~10月に定期的な防除を実施する。また、芽かき、収穫、整枝などによってできた傷口から発病するので、これらの作業が始まる時期に防除を開始する。

(2) 前作の罹病残さは伝染源になるので、ハウス内外に放置せず、適切に処分する。

2)ミナミキイロアザミウマ

予 想 発生量：やや少(中央部)、少(東部、西部)

根 拠

(1) 9月の調査では、県東部と中央部で発生が見られ、発生面積は中央部で平年並、東部で平年よりも少なく、発生程度はいずれも平年より低かった。

(2) 10月は気温が高く、降水量は平年並と予想されていることから、発生は増加基調である。しかし、ほとんどのほ場でタバコカスミカメなどの天敵類が導入されており、天敵類の密度も高まると見込まれることから、発生は減少すると考えられる。

対 策

(1) 防除効果が高い薬剤が少ないので天敵昆虫の利用を基本とし、開口部のネット被覆(1mm目以下)や他の防除方法も組み入れる。

(2) 薬剤防除を行う場合、発生初期の防除を心がける。

3)ハスモンヨトウ

予 想 発生量：多(東部、中央部、西部)

根 拠

(1) 9月の調査では、県下全域で発生がみられ、発生面積は県中央部、西部で平年よりも多く、東部で平年よりもやや多かった。発生程度は中央部、西部で平年よりも高く、東部でやや高かった。

(2) 9月のフェロモントラップへの誘殺数は、いずれの地域も平年並以下であったが、第5半旬以降、増加傾向が見られる。

(3) 10月は気温が高く、降水量は平年並と予想されていることことから、発生が増加

すると考えられる。

対 策

- (1) 開口部にネット被覆を行い、成虫の侵入を防止する。
- (2) 薬剤防除を行う場合、発生初期の防除を心がける。

4) タバココナジラミ

予 想 発生量：やや多（西部）、やや少（東部、中央部）

根 拠

- (1) 9月の調査では、県下全域で発生がみられ、発生面積は県西部で平年よりも多く、東部、中央部は平年並であった。発生程度は西部で平年よりも高く、その他の地域は平年並以下であった。
- (2) 10月は気温が高く、降水量は平年並と予想されていることから、発生は増加基調である。しかし、ほとんどのほ場でタバコカスミカメなどの天敵類が導入されており、天敵類の密度も高まると見込まれることから、発生は減少すると考えられる。

対 策

- (1) 防除効果が高い薬剤が少ないので天敵昆虫の利用を基本とし、開口部のネット被覆（1mm目以下）や他の防除方法も組み入れる。
- (2) 薬剤防除を行う場合、発生初期に生長点付近を中心に防除を行う（成虫は新葉の葉裏に産卵する）。

農作物の病虫害防除のための情報です。お気軽にご利用ください。

病虫害防除所ホームページ(こうち農業ネット)<https://www.nogyo.tosa.pref.kochi.lg.jp/?sid=2016>

- ①病虫害発生予察月報、病虫害発生予察予報
- ②病虫害発生予察注意報、病虫害発生予察警報、病虫害発生予察特殊報
- ③病虫害発生予察技術資料
- ④新しく問題となっている病虫害 etc.

高知県農薬情報システム <https://www.nouyaku-sys.com/nouyaku/user/haishinfile/list/kochi>

- ①農薬の検索
- ②農薬データの一覧
- ③配信ファイルの閲覧(農薬安全使用、病虫害防除指針 etc.)